

14時30分解禁

令和元年10月 全国百貨店売上高概況

令和元年11月22日

I. 概況

1. 売上高総額	3,863億円余
2. 前年同月比	-17.5% (店舗数調整後/3か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	76社 208店 (令和元年9月対比-2社4店)
4. 総店舗面積	5,240,558㎡ (前年同月比:-4.7%)
5. 総従業員数	64,593人 (前年同月比:-5.4%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 -0.6%、4-6月 -0.9%、5-7月 -1.6%、 6-8月 -0.7%、7-9月 6.8%、8-10月 2.0%

[参考] 平成30年10月の売上高増減率は1.7% (店舗数調整後)

【特徴】

10月は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要(9月:23.1%増)の反動に加え、台風19号の影響による臨時休業や営業時間短縮などマイナス与件が重なり、売上高は17.5%減と厳しい結果となった。各社が企画した物産展や外国展などの人気催事やカード会員施策が集客に寄与した他、一部店舗では改装効果も見られたものの、増税前後の需要変動は、前回(2014年3月:25.4%増/4月:12.0%減)と同様に大きく振幅し推移した。

顧客別では、国内市場(シェア93.4%)が17.7%減、インバウンド(シェア6.6%)は購買単価がプラス(1.2%増)したが、円高基調の為替動向や米中貿易摩擦等の不安定な国際情勢が響き、13.8%減(256億円)と2か月ぶりに前年実績を下回った。

地区別では、北海道(4.8%減)を除く全都市・地区で二桁減となった。都市(10都市)が17.3%減、地方(10都市以外の地区)が17.9%減と、減少幅は全国的にほぼ同様の傾向だった。

商品別では、前月駆け込み需要で高伸した高額商材を中心に下げ幅が大きく、主要5品目全てでマイナスした。高額品(美術・宝飾・貴金属/31.3%減)と化粧品(21.3%減)を含む雑貨(24.3%減)、ラグジュアリーブランドなどの身のまわり品(23.4%減)、前月重衣料が動いた衣料品(21.4%減)など3品目では、20%を超える減少となった。家庭用品(19.9%減)もマイナスしたが、構成比が小さく外販中心の家電のみ0.8%増と5か月連続でプラスしている。

軽減税率対象の食料品(5.1%減)は、地方物産展など食品催事が好評で、月の半ば以降盛り返しを見せたものの、台風・大雨等の天候与件もあって前年実績には及ばなかった。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
◇北・東・西日本では、気温がかなり高く、台風19号による記録的な大雨などで、北日本太平洋側と東日本では、降水量がかなり多かった。
- (2) 営業日数増減 30.5日(前年同月比 -0.4日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(" +1日/祝日1日増)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数116店舗)
①増加した:9店、②変化なし:24店、③減少した:83店
- (5) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数81店舗)
①増加した:4店、②変化なし:30店、③減少した:47店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2019年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	386,374,400	100.0	-17.5 (-18.2)
10都市	275,937,903	71.4	-17.3 (-17.3)
札幌	11,027,705	2.9	-14.4
仙台	5,068,814	1.3	-19.6
東京	104,398,125	27.0	-19.0 (-19.3)
横浜	23,460,357	6.1	-17.1
名古屋	24,420,000	6.3	-17.4
京都	16,314,758	4.2	-16.5
大阪	58,693,923	15.2	-15.0
神戸	9,398,481	2.4	-24.1 (-20.1)
広島	8,211,999	2.1	-15.7
福岡	14,943,741	3.9	-13.6
10都市以外の地区	110,436,497	28.6	-17.9 (-20.2)
北海道	975,243	0.3	-4.8 (-29.7)
東北	5,851,827	1.5	-16.3
関東	46,542,243	12.0	-18.4 (-21.9)
中部	8,819,675	2.3	-16.8 (-18.1)
近畿	16,102,793	4.2	-13.8 (-13.2)
中国	8,396,823	2.2	-20.8
四国	6,355,090	1.6	-20.1
九州	17,392,803	4.5	-19.0 (-22.5)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	386,374,400	100.0	-17.5 (-18.2)
紳士服・洋品	27,296,589	7.1	-22.0 (-22.6)
婦人服・洋品	79,482,928	20.6	-20.5 (-21.4)
子供服・洋品	7,908,845	2.0	-18.8 (-19.5)
その他衣料品	7,173,490	1.9	-30.0 (-30.7)
衣 料 品	121,861,852	31.5	-21.4 (-22.2)
身のまわり品	47,356,465	12.3	-23.4 (-24.2)
化粧品	36,934,122	9.6	-21.3 (-21.9)
美術・宝飾・貴金属	20,110,978	5.2	-31.3 (-31.7)
その他雑貨	12,713,363	3.3	-20.4 (-23.6)
雑 貨	69,758,463	18.1	-24.3 (-25.3)
家 具	3,752,265	1.0	-20.2 (-21.3)
家 電	790,057	0.2	0.8 (0.5)
その他家庭用品	9,645,836	2.5	-21.1 (-22.9)
家 庭 用 品	14,188,158	3.7	-19.9 (-21.4)
生 鮮 食 品	20,974,502	5.4	-5.2 (-6.9)
菓 子	27,106,028	7.0	-5.7 (-5.7)
惣 菜	28,086,584	7.3	-4.4 (-3.8)
その他食料品	32,913,381	8.5	-5.2 (-7.6)
食 料 品	109,080,495	28.2	-5.1 (-6.0)
食 堂 喫 茶	10,308,262	2.7	-9.2 (-11.3)
サ ー ビ ス	4,522,973	1.2	-6.6 (-8.5)
そ の 他	9,297,732	2.4	-6.7 (2.2)
商 品 券	7,080,188	1.8	-15.3 (-15.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -17.3% (店舗数調整後/3か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -17.9% (店舗数調整後/3か月ぶりマイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-17.3	-12.3	3か月ぶりマイナス
札幌	-14.4	-0.4	2か月ぶりマイナス
仙台	-19.6	-0.3	3か月ぶりマイナス
東京	-19.0	-5.3	3か月ぶりマイナス
横浜	-17.1	-1.0	3か月ぶりマイナス
名古屋	-17.4	-1.1	3か月ぶりマイナス
京都	-16.5	-0.7	3か月ぶりマイナス
大阪	-15.0	-2.2	9か月ぶりマイナス
神戸	-24.1	-0.4	2か月ぶりマイナス
広島	-15.7	-0.3	2か月ぶりマイナス
福岡	-13.6	-0.5	2か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	-17.9	-5.1	3か月ぶりマイナス
北海道	-4.8	-0.0	3か月ぶりマイナス*
東北	-16.3	-0.2	3か月ぶりマイナス*
関東	-18.4	-2.3	3か月ぶりマイナス
中部	-16.8	-0.4	3か月ぶりマイナス
近畿	-13.8	-0.5	2か月ぶりマイナス
中国	-20.8	-0.5	2か月ぶりマイナス*
四国	-20.1	-0.3	3か月ぶりマイナス
九州	-19.0	-0.9	2か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、本年1月以来9か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、その他の品目は、家電が5か月連続のプラスとなったほかは、先月の駆け込み需要の反動で全てマイナスとなったが、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品は、一桁のマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-17.5	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-22.0	-1.7	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-20.5	-4.4	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-18.8	-0.4	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-30.0	-0.7	3か月ぶりマイナス
衣料品	-21.4	-7.1	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	-23.4	-3.1	3か月ぶりマイナス
化粧品	-21.3	-2.1	55か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-31.3	-2.0	9か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-20.4	-0.7	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-24.3	-4.8	9か月ぶりマイナス
家具	-20.2	-0.2	4か月ぶりマイナス
家電	0.8	0.0	5か月連続プラス
その他家庭用品	-21.1	-0.6	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-19.9	-0.8	3か月ぶりマイナス
生鮮食品	-5.2	-0.2	12か月連続マイナス*
菓子	-5.7	-0.3	9か月ぶりマイナス*
惣菜	-4.4	-0.3	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-5.2	-0.4	2か月ぶりマイナス*
食料品	-5.1	-1.3	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-9.2	-0.2	2か月ぶりマイナス
サービス	-6.6	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他	-6.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
商品券	-15.3	-0.3	104か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

令和元年10月 東京地区百貨店売上高概況

令和元年11月22日

I. 概況

1. 売上高総額	1,043億円余
2. 前年同月比	-19.0% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-19.1%(91.5%) : 非店頭-18.6%(8.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店 (令和元年9月対比-1社1店)
5. 総店舗面積	834,827㎡ (前年同月比:-0.5%)
6. 総従業員数	17,250人 (前年同月比:-2.7%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 -0.6%、4-6月 -1.2%、5-7月 -1.9%、 6-8月 -0.1%、7-9月 7.0%、8-10月 1.5%

[参考] 平成30年10月の売上高増減率は2.6%

【特徴】

- (1) 10月の東京地区は、消費増税前の駆け込み需要の反動の他、台風19号の影響が甚大で多数の店舗が臨時休業や営業時間を短縮したことに加え、他地区に比べ構成比の高いインバウンドも訪日客の減少や為替の影響を受け不調だったことから、入店客数(10.5%減/3か月ぶり)、売上高(19.0%減/3か月ぶり)共に全国水準を下回る結果となった。
- (2) 一方、台風一過の中旬以降は、気温低下に伴って秋冬物の季節商品などに動きが見られたことや、各店が積極展開した地方物産展や人気催事、組織顧客への販促策などが集客や売上に寄与し、業績は改善基調で推移した。
- (3) 商品別では主要5品目全てでマイナスとなった。雑貨(25.8%減)と身のまわり品(25.5%減)は、高額品やラグジュアリーブランドを中心に増税の反動が大きかったが、下旬には復調の兆しも見られた。クリスマスコフレ、メイクアイテム、スニーカー、レイングッズなどは好調だった。
- (4) 衣料品(22.8%減)は、前月伸長したコートなど防寒衣料の動きは鈍かったものの、下旬からジャケット、セーター、秋物ニットも動いた他、カスタムメイド志向の高まりを背景に、イージーオーダーが堅調だった店舗も見られた。
- (5) 細分類では、デザイン性の高い商品や外商販売が好調だった家電(19.8%増)が二桁のプラスとなった。また、食料品は軽減税率の適用と併せ、各社が打ち出した様々な食品関連企画が奏功し、その他食料品(0.6%減)はほぼ前年並みであった。
- (6) 11月中間段階の商況は、5.9%減(11/18)で推移しており、徐々に回復基調にある。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 -1.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した: 0店、②変化なし: 2店、③減少した: 16店
- (3) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 3店、③減少した: 8店

東京地区百貨店 売上高速報 2019年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	104,398,125	100.0	-19.0 (-19.3)
紳士服・洋品	9,632,774	9.2	-23.8 (-23.8)
婦人服・洋品	19,243,562	18.4	-22.6 (-22.6)
子供服・洋品	2,041,773	2.0	-16.3 (-16.3)
その他衣料品	1,816,966	1.7	-26.3 (-26.3)
衣 料 品	32,735,075	31.4	-22.8 (-22.8)
身のまわり品	14,087,422	13.5	-25.5 (-25.6)
化粧品	11,027,275	10.6	-20.8 (-21.1)
美術・宝飾・貴金属	6,206,786	5.9	-31.9 (-32.1)
その他雑貨	3,950,149	3.8	-28.2 (-28.3)
雑 貨	21,184,210	20.3	-25.8 (-26.0)
家 具	1,103,008	1.1	-25.1 (-25.1)
家 電	541,792	0.5	19.8 (19.8)
その他家庭用品	2,505,303	2.4	-19.9 (-19.9)
家 庭 用 品	4,150,103	4.0	-17.9 (-17.9)
生 鮮 食 品	3,972,559	3.8	-3.5 (-3.5)
菓 子	6,659,900	6.4	-6.9 (-7.1)
惣 菜	6,576,285	6.3	-4.0 (-4.0)
その他食料品	8,305,163	8.0	-0.6 (-0.6)
食 料 品	25,513,907	24.4	-3.6 (-3.7)
食 堂 喫 茶	2,422,846	2.3	-10.7 (-11.0)
サ ー ビ ス	1,937,797	1.9	-5.8 (-5.8)
そ の 他	2,366,765	2.3	-13.9 (-23.6)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,709,149 千円	-20.2 (-20.2)
従 業 員 数	17,250 人	-2.7
店 舗 面 積	834,827 m ²	-0.5

営 業 日 数	30.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、本年1月以来9か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、その他の品目は、全国同様、家電が5か月連続のプラスとなったほかは、先月の駆け込み需要の反動で全てマイナスとなったが、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品は、一桁のマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-19.0	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-23.8	-2.3	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-22.6	-4.4	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-16.3	-0.3	4か月ぶりマイナス
その他衣料品	-26.3	-0.5	3か月ぶりマイナス
衣料品	-22.8	-7.5	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	-25.5	-3.7	3か月ぶりマイナス
化粧品	-20.8	-2.2	3か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-31.9	-2.3	9か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-28.2	-1.2	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-25.8	-5.7	9か月ぶりマイナス
家具	-25.1	-0.3	2か月ぶりマイナス
家電	19.8	0.1	5か月連続プラス
その他家庭用品	-19.9	-0.5	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-17.9	-0.7	4か月ぶりマイナス
生鮮食品	-3.5	-0.1	13か月連続マイナス*
菓子	-6.9	-0.4	14か月ぶりマイナス*
惣菜	-4.0	-0.2	8か月ぶりマイナス*
その他食料品	-0.6	-0.0	3か月ぶりマイナス*
食料品	-3.6	-0.7	4か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-10.7	-0.2	2か月ぶりマイナス
サービス	-5.8	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他	-13.9	-0.3	4か月連続マイナス
商品券	-20.2	-0.3	13か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>